

第3回 むらの伝統文化顕彰（財）都市農山漁村交流活性化機構理事長賞

タイトル：具志堅^{くしけん}のシニーク

団体等名：本部町

自治体名：沖縄県本部町^{もとぶちょう}

概 要

「大昔からの祭りという意味」のシニークは沖縄本島北部の島々や古い集落で行われている神事である。300年以上もの歴史をもっていると言い伝えられている具志堅のシニークは稲の収穫後にその豊作を祝い、来年の豊作、豊穰を予祝（祈願）するもので、年1回、旧暦の7月19日から25日までの7日間にわたり開催される。



祭祀は、15歳から90歳までの区民全ての参加によって行われ、区出身者も帰郷して祭りに参加するなど、7日間の参加人数は約200人にもものぼっている。

「神迎えの行事」に始まり「豊漁・豊穰の感謝と予祝の儀礼」「祓いの儀式」「修祓儀礼の後の性別の儀礼」「シニーク舞（奉納踊の儀礼）」と繰り広げられる。特に、最終日に村落の女性60～70名によって感謝と祈りを込めて奉納されるシニーク舞は祭りの中で最も大きな行事であり、平成9年に無形文化財として町の指定を受けている。

祭祀の時期になると自然と区民の協力のもと準備が進められるなど強い繋がりがある。また、後継者対策として、シニーク保存会を結成し、月1回のペースで歌や踊りの練習をするなど地区民一丸となって伝統文化の保存・継承へ取り組んでいる。

これらの取り組みから、町外のNPO法人によるシニーク鑑賞、県外大学生によるシニークの調査・紹介が行われるなど、町内外の人々を巻き込んだ地域興し、伝統文化の伝承が行われるようになってきている。

講 評

シニークは沖縄本島北部で行われている神事です。具志堅シニークは、稲の収穫後にその豊作を祝い、来年の豊作、豊穰を予祝（祈願）するもので、旧暦に従い7日間にもわたって行われています。長い儀礼を支えるため、長老から若者へと受け継がれていく強い繋がりを基礎とした支援体制が作られています。また、町外のNPOが主催するシニーク鑑賞も行われるなど、多様な主体がシニークを軸に結びついてきています。地区住民が一体となって伝統的な祭りの形式を守り、伝承し、それが幅広い交流の契機となっていることが評価されました。